

唐紙が二巻

明生山草堂書

身なりを如くか

書ししきり

二月の月

子に人

月日

月日

一七

一

唐紙の巻

此の巻は唐紙の巻

の巻は唐紙の巻

の巻は唐紙の巻

の巻は唐紙の巻

の巻は唐紙の巻

の巻は唐紙の巻

の巻は唐紙の巻

一石

唐紙の巻



唐紙の美事

昨日は夏運載為玉神の事物に於て心を  
尋ねしとて其意を申すに日  
その進上り又北野神の詩に  
やば可辨道下をいへ

主水後

信甲

近衛信尹の信基と云ふ大和の臣前久の子也王の身七月元服の朝信長冠す  
加工禮字ヲ授ケテ信基ト稱セシム 歴代に在るに如し信神ト云左大臣後一任の附  
明後從ハシコトヲ請フ後陽成天皇豊臣氏を去リテ之ヲ止メシム 唐長六年  
信甲ト更ニ朝臣長者ト為ス 寛弘三年遊ス唐長九年一月薨ス 其年  
九十歳ニ三藐院ト稱ス 信甲能書ヲ稱リ又好ミテ天神ノ像ヲ畫リ信基  
其後ヲ繼グ

右唐長ハ即史ノ名釋書サキナリ

唐長七年正月百八十五也

明長参松九年四月二日

中流の陰

